

センター行事メモ

●表彰関係

一 所 内

賞の種類 ・有功賞
 受賞件名 ・「超アクチノイド元素ラザホージウムの合成とその単一レベルでの化学挙動に関する研究」
 受賞日 ・平成14年6月28日
 受賞者 ・永目論一郎（超アクチノイド元素核化学研究グループ）他6名

賞の種類 ・有功賞
 受賞件名 ・「レーザー誘起分光法によるアクチノイドの高感度状態分析法の開発」
 受賞日 ・平成14年6月28日
 受賞者 ・木村 貴海（機能性場アクチノイド化学研究グループ）

●外国人研究者招聘

年 月 日	招 聘 者	招 聘 目 的
14. 5. 19～6. 1	ドイツ ヨーロッパ超ウラン元素研究所 Dr. Gerald H. Lander	先端基礎研究センターにて研究討論
14. 5. 14～5. 18	アメリカ オークリッジ国立研究所 Dr. Bryan Chakoumakos	日米共同で、メタンなどの包接する格子状水化物について中性子回析実験
14. 5. 14～5. 18	アメリカ オークリッジ国立研究所 Dr. Adam J. Roudinone	日米共同で、メタンなどの包接する格子状水化物について中性子回析実験
14. 5. 21～5. 22	オーストラリア オーストラリア国立大学 Dr. Sergey Kun	基礎科学セミナーでの講演 「重イオン衝突における原子内電子の成果」
14. 6. 18～6. 27	アメリカ ブルックヘブン国立研究所 Dr. Arokiasamy J. Francis	重元素マイクロバイオロジーに関する討論
14. 9. 10～10. 4	ドイツ 重イオン研究所 Prof. Sigurd Hofmann	重元素核化学の現状ならびに今後の国際協力を含めた計画について議論
14. 7. 14～11. 13	チェコ共和国 科学アカデミー原子核物理研究所 Dr. Jiri Vacik	新材料創製のための過飽和物質における自己組織化過程の研究についての実験的な評価
14. 7. 22～8. 16	ロシア 科学アカデミー化学物理エネルギー研究所 Dr. Engene B. Gordon	液・固体ヘリウム中の原子や分子のラマン分光についての共同実験及び議論
14. 8. 19～8. 20	ドイツ マドリッド大学 Dr. Hermann Suderow	基礎科学セミナーでの講演 「Scanning tunneling spectroscopy at very low temperatures in the super-conducting borocarbides and in MgB ₂ 」
14. 10. 30～11. 16	イギリス ロンドン大学 Prof. Keith A. McEwen	U ₃ Pd ₂₀ Si ₆ などのウラン化合物磁性に関する中性子実験
14. 10. 14～10. 22	アメリカ エネルギー省 Dr. Lester R. Morss	基礎科学セミナーでの講演 「米国における超ウラン元素化学の研究の現状と世界的視野からのニーズ」
14. 11. 11～11. 16	ドイツ ヨーロッパ超ウラン元素研究所 Dr. Gerald H. Lander	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 11～11. 16	ドイツ マックスプランク研究所 Prof. Frank Steglich	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 10～11. 13	ドイツ マックスプランク研究所 Prof. Peter Fulde	基礎科学セミナーでの講演 「軌道自由度と幾何学的フラストレーション」及び先端基礎研究国際シンポジウムでの講演

年月日	招 聘 者	招 聘 目 的
14. 11. 10~11. 15	ハンガリー 固体物理光学研究所 Prof. Patrik Fazekas	基礎科学セミナーでの講演 「軌道自由度と幾何学的フラストレーション」及び先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 10~11. 14	韓国 ソウル国立大学 Prof. Je-Guen Park	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 11~11. 14	アメリカ NEC 研究所 Dr. Premi Chandra	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 9~11. 16	オーストリア オーストリア大学 Dr. Andreas Lindbaum	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 10~11. 16	アメリカ ロスアラモス研究所 Dr. John L. Sarrao	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 11~11. 15	フランス EC ジョイントリサーチセンター Dr. Franck H. Wastin	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 10~11. 16	スイス ケンブリッジ大学 Dr. Philippe H. Monthoux	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 10~11. 15	中国 ライス大学 Prof. Qimiao Si	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 10~11. 15	アメリカ カリフォルニア大学 Prof. M. Brian Maple	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 9~11. 15	ドイツ、オーストリア マックスプランク研究所 Dr. Silke Buehler-Paschen	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 10~11. 15	アメリカ フロリダ州立大学 Prof. Zachary Fisk	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 10~11. 15	イタリア アンコーナ大学 Prof. Roberto Caciuffo	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 10~11. 16	イギリス フランス原子力庁 Dr. Andrew Huxley	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 11~11. 14	アメリカ ラトガース大学 Prof. Gabriel Kotliar	先端基礎研究国際シンポジウムでの講演
14. 11. 25~12. 4	カナダ 北方応力テクノロジー社 Dr. Thomas M Holden	残留応力解析装置を利用した研究について議論
14. 11. 19~11. 23	イギリス マンチェスター大学 Prof. John Richard Helliwell	開放的融合研究国際シンポジウムに参加
14. 11. 20~11. 24	フランス ルイパスツール大学 Prof. Eric Westhof	開放的融合研究国際シンポジウムに参加
14. 11. 14~11. 25	イギリス フランス原子力庁 Dr. Nicholas Bernhoeft	UPt ₂ Si ₂ および重い電子系超伝導 PrOs ₄ Sb ₁₂ 中性子散乱実験
14. 11. 6~11. 8	イタリア 核物理研究所 Dr. Aldo Bonasera	基礎科学セミナーでの講演 「From the QGP to the Tokamak」
14. 11. 17~11. 19	ドイツ フランクフルト大学 Prof. Joachim Maruhn	基礎科学セミナーでの講演 「Nuclear Mean-Field Models and their Extrapolation to the Superheavy Region」
14. 12. 11~12. 13	ロシア 合同原子核研究所 Prof. Valeri Zagrebaev	基礎科学セミナーでの講演 「Fusion-fission dynamics of heavy nuclear systems」
15. 1. 6~1. 10	イギリス ラザフォードアップルトン研究所 Dr. Roger Eccleston	検出器や信号処理装置等の設置方法、実験に必要な RAL 設備などを検討
15. 1. 6~1. 10	イギリス ラザフォードアップルトン研究所 Dr. Nigel Rhodes	検出器や信号処理装置等の設置方法、実験に必要な RAL 設備などを検討
15. 1. 27~2. 1	イギリス マンチェスター大学 Prof. Jonathan R. Lloyd	アクチノイドと微生物に関する研究について研究討論

●基礎科学セミナー

回	年月日	講演者	開催テーマ
240	14. 3. 27	E. B. Gordon (科学アカデミー化学物理エネルギー研究所)	The Exciton Luminescence under Excess Electron Drift through Condensed Rare Gases
241	14. 4. 23	小浦 寛之 (理化学研究所)	原子質量公式を用いた不安定原子核の性質 – 超重核及び中性子過剰核 –
242	14. 5. 22	Sergey Kun (オーストラリア国立大学)	重イオン衝突における原子内電子の成果
243	14. 6. 26	巽 敏隆 (京都大学)	高密度核物質での中間子凝縮相転移
244	14. 7. 4	橋本 治 (東北大学)	ハイパー核物理の展開「中間子および電子線ビームによるハイパー核分光」
245	14. 8. 7	大槻 勤 (東北大学)	障壁近傍の核分裂「核分裂と巨大共鳴および形状アイソマー」
246	14. 8. 19	H. Suderow (マドリッド大学)	Scanning tunneling spectroscopy at very low temperatures in the superconducting borocarbides and in MgB ₂
247	14. 9. 30	Sigurd Hofmann (重イオン研究所)	Synthesis and Properties of Superheavy Elements
248	14.10.21	Lester R. Morss (エネルギー省)	米国における超ウラン元素化学の研究の現状と世界的視野からのニーズ
249	14.11.11	Peter Flude 他 (マックスプランク研究所)	軌道自由度と幾何学的フラストレーション
250	14.11.22	下田 正 (大阪大学)	スピン偏極した不安定核ビームで探る不安定核の構造
251	14.11. 8	Aldo Bonasera (核物理研究所)	From the QGP to the Tokamak
252	14.11.18	Joachim Maruhn (フランクフルト大学)	Nuclear Mean-Field Models and their Extrapolation to the Superheavy Region
253	14.11.27	Thomas Holden 他	パルス中性子残留応力装置検討ワークショップ
254	14.12. 2	Thomas Holden 他	中性子回析による残留応力解析研究会